



出雲國神仏霊場第16番

八雲立つ日本初之宮 須我神社

古事記所載「須賀宮」



海潮山王寺神楽 ● 須佐之男命の八岐オロチ退治



駐車場

普通車 30台
(駐車場より神社まで徒歩3分)
大型バス 5~6台(神社前)

自家用車

山陰自動車道「松江西ランプ」より
主要地方道 県道24号線 松江・木次線を大東方面に30分

バス

JR松江駅より大東行き、もしくはJR大東駅より松江行きの
一畑バス「須賀」で下車 徒歩3分

須我神社

〒699-1205 島根県雲南市大東町須賀260
Tel・Fax 0854-43-2906



御祭神

須佐之男命
奇稲田姫命
清之湯山主三名狭漏彦八島野命
建御名方命 (合殿)

御神徳

○悪切り・開運
○縁結び・子授け・安産 他

須我神社でしか受けられない御守

宮型入り 「御霊剣」の御守 (二万円)
桐箱入り 「三 氣」の御守 (三千円)

主な祭礼 神事

- ◆百手の的行事 (もてのまとしんじ)
二月十七日 祈年祭に続く神事。悪鬼退散、五穀豊穡を祈願する。
- ◆茅之輪神事 (ちのわしんじ)
六月三十日 夏越の大祓の日、須佐之男命が蘇民将来に一夜の宿を借り受けた報いに授けた茅の輪の故事にあやかり、その輪をくぐり祈願する除災招福の神事。
- ◆莫塵替祭 (もぢかえまつり)
八月二十一日 神前に新莫塵を奉納する祭。古くは荒麻と新莫塵を交換する市場が立ち賑わった。(神社前を市場という)
- ◆鹿食之神事 (かじきのしんじ)
九月二十七日 大祭前夜祭の神事。合殿建御名方命を祀る諏訪大社の神事を伝承、鹿の頭を供え、神酒を献じ国家安泰、五穀豊穡を祈願する。子供神楽の奉納がある。
- ◆例大祭 九月二十八日午後一時より
祭典後に神幸式、神代神楽、綱引き大会(夜)などが行われる。



古事記所載の「須賀宮」八雲立つ日本初之宮
「悪切り」「縁結び」「子授け」のご利益

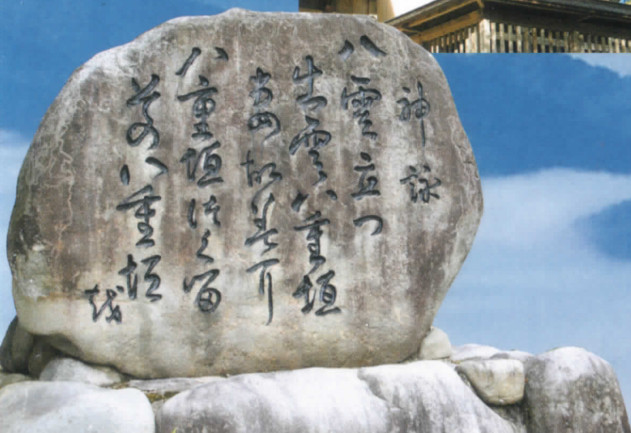
八雲立つ

出雲八重垣

つまごみに

八重垣つくる

その八重垣を



須我神社の主祭神は、須佐之男命と奇稲田姫命、そして
その御子神、清之湯山主三名狭漏彦八島野命の三柱の
神様であります。
すがのゆやまぬしみなさるひこやしまのみこと

須佐之男命と奇稲田姫命を祀ることから「悪切り開運」
「良縁結び」「子授け」「五福授与」の御利益があります。
古事記(和銅五年・七十二年)には、八岐遠呂智を退治な
さった須佐之男命は、出雲須賀の地に至り宮造りなさい
ました。これにより須我神社は日本初之宮と申します。
宮造りなされたとき美しい八重の雲が宮殿を取囲むよう
に立ち上ったのをご覧になって

『八雲立つ 出雲八重垣 つまごみに

八重垣つくる その八重垣を』

とお詠みになりました。この三十二文字の歌が日本最古の
歌であることから、当社は和歌発祥の神社とされており
ます。また『出雲』の地名はこの御歌から起こったので国
名の起源ともなっております。
すがのみや

古事記や日本書紀に記されている『須賀宮』は当社須我
神社のことです。さらに遠呂智の尾から出た、三
種の神器の一つであります『天之叢雲剣』は、この地から
天照大御神に献上なされたとの言い伝えもあります。
あめのみけものつるぎ

「夫婦岩」須我神社 奥宮



大中小の磐座が親子のように見える
「夫婦岩」須我神社より約2キロの山
腹に位置する



夫婦岩までの道中にある「神泉坂根水」
不老長寿の効用の湧き水で身を清めて
参拝する

神々の宿る八雲山―御室山の中腹にそそり立つ巨
岩(夫婦岩)、大中小三つの磐座は、古代における須
我神社の祭祀の地であり、須我神社奥の宮として崇
敬され、参拝に訪れる人々を神秘の世界に誘い込み
ます。参道は「文学碑の径」として60基の歌碑句碑
が建立されています。
みむろやま いわくら